

## セルロイドハウス横浜館の2022-23年度活動目標について

館長 岩井 薫生 (いさお)

セルロイドハウス横浜館は2020年1月からコロナウイルス感染症による社会的活動の低迷と来館者への安全対策上休館し、その後再三にわたるまん延防止等の重点措置の発令により2021年12月末まで休館のやむなきに至りました。

感染症の患者数も全国的にみて、減少を続けワクチン接種の効果などもあり、落ち着いた環境になりました。しかし最近新しいタイプの変異株の出現が見られますが、感染対策に万全を期し、当館は2022年1月から毎週土曜日午前10時から午後4時まで、開館することになりました。

但し状況が急変する場合にはやむを得ず臨時休館することも考えられます。

何卒よろしくご賢察のほどをお願いいたします。

来館に際しては、事前に当館のサイト ([www.celluloidhouse.com](http://www.celluloidhouse.com))

または電子メール ([celluloidhouse@aol.com](mailto:celluloidhouse@aol.com)) でご確認し、ご予約の上

ご来館ください。

館長以下学術スタッフ一同心から歓迎いたします。

## 1. 2022-23年度の当館の重点活動目標

当該事業年度の重点活動は次の通りです。

### 1-1. セルロイド総覧の出版計画

2000年度から20年間にわたり、セルロイドに関して  
広範囲にわたる図書文献と技術情報、社史及び業界雑誌等の刊行物、  
企業が発行した製品案内やパンフレット類、研究発表会や講演会の  
テキスト類、セルロイド産業に勤務した方々へ実施した聞き取り  
調査記録と各種メモ類、オーラルヒストリーおよび音声と映像、すで  
に閉鎖したセルロイド材料製造会社や製品製作現場や加工工場の  
記録類、当館の協力研究団体のセルロイド産業文化研究会が  
定期的で開催したシンポジウムの講演資料やガイダンス文書類、  
その他セルロイド製造、加工、玩具、人形、日用品やチャーム等装飾  
品、メガネや光学部品類、パチンコ台や遊戯用品と多岐にわたる用途  
調査資料、販売出荷情報、工業会から寄贈された膨大な文書資料等を  
精力的に収集し、また寄贈を受けこれらの膨大な情報データベース  
を出発点としてまとめ、一括セルロイド無形記録資産として  
研究調査を続け、俯瞰的観点からセルロイドに関する産業、歴史、  
文化、技術をキーワードとしてまとめ、セルロイド総覧として出版を

計画しました。

2020年度から本格的に編纂活動を開始し、2022年度末までに編集業務は完了し2023年度上半旬にハードコピー版と電子版で出版します。

この実務はセルロイド文化産業研究会の関西グループが担当しています。セルロイド総覧は関係各位の期待に十分沿えることが出来ると確信しています。

## 1-2. セルロイド装飾品の洗浄と調査研究事業

当館には関西のセルロイド装身具の企業が工場閉鎖に伴い倉庫に保有していた装飾品と金型を一括して関係者のご厚意により寄贈を受けました。

2019年度から本格的に佐藤副館長と梅井主査が中心となりその実態調査を開始しました。コレクションの数は確認中ですが、数千点規模と予想されています。コレクションの汚れの度合いが著しく進んでおり、洗浄作業が不可欠です。現在作業を続けていますが、2022年度は精力的に取り組んで、洗浄の上、個別製品ごとに詳細を記録し写真撮影等を実施します。

この作業には細心の注意が必要で前途多難ですが、熱意で取り組んでいきます。

装飾品成形用金型調査についてはほぼ作業を完了していますが、上記装飾品コレクションについては全体の10%程度の調査が完了している段階です。

全数把握については2022年度上半に確認が終了する予定です。調査中に、留め金に「made in Japan」の刻印があるブローチ類が見つかりました。この表示は1947年（昭和22年）から1952年（昭和27年）の輸出品に義務付けられたもので、時代考証上重要な資料です。

2021年11月の時点で製品に対応する金型も200点程度が判明しており、引き続き製品と金型の同一確認（マッチング調査）に注力します。

### 1-3. セルロイド成形金型と初期プラスチック金型調査研究事業

当館は多数の吹込み金型、圧縮金型、型締め金型、打ち抜き金型などと共に初期プラスチック金型を収蔵しています。

2016年度から佐藤副館長が金型毎に計測を行い、形状や材質、

その他特記事項を詳細に記録し調査の上データベース化と写真撮影を実施しています。

金型調査研究作業の中間段階での**成果**については佐藤副館長が当館のホームページ上の**研究調査コーナーに数報の報告**を掲載していますので、ご参考ください。

なお本事業についてはセルロイド金型から、途中の様々な技術開発努力の段階を経て今日の確固たるプラスチック成形金型技術の確立までにどのような過程を経てきたかを研究するにあたり、

当館保有の初期プラスチック成型用金型の存在は重要です。

**金型技術の一連のプロセス変遷の解明の成果は、関係者から期待が寄せられています。**

#### 1－4. セルロイド製グリーンティングカードの調査研究事業

当館には海外諸国で広く流通した多数のセルロイド製グリーンティングカード（イワイセルロイドグリーンティングカードコレクション）を収蔵し、公開展示されています。

年代的には最も古い1890年代の欧州諸国のカードから始まり、

1900年代、1910年代、1920年代、1930年初期までの

期間に発行され、使用されたカードで、使用言語は、主として英語、フランス語、一部ヘブライ語があります。

内容については今後語学の専門家やコレクターの協力や支援を得て詳細にわたる内容解読と時代検証を実施する予定です。

当該分野は未開拓な研究領域で、高度の研究調査能力が必要と思われます。

すでに判明している記載内容は次の通りです。

1. 新年の挨拶
2. 時候の挨拶
3. 結婚のお知らせ
4. 誕生日のお祝い
5. 家族の便り
6. 近況報告
7. 愛情表現
8. 再会の喜びと別離の悲しみ
9. 教会関係
10. その他

この他興味ある長文の文章の内容については解読が困難のカードも散見され、解読には困難を伴うと予想されます。

なお日本国内ではセルロイドカードの制作や流通の事実が見つからず、使用する生活習慣がないので、現在日本製のカードの存在は確認されていません。この点については今後追跡調査が必要と思われます。

## II. まとめ

当館では前に述べました重点調査研究目標を達成するために  
スタッフ一同努力を重ねていますが、この分野に関係する多くの  
方々や専門家からの情報提供と御助言を期待しています。

現在セルロイド総覧出版のための作業中ですが、得られた  
最新成果を出版物に組み込みたいと考えています。

今日隆盛を誇るプラスチック産業の先駆者であり、出発点となり、  
セルロース系天然材料と人間の工芸的技術が加わり発明された  
画期的なセルロイド材料が、19世紀後半から20世紀後半まで  
およそ100年間、産業経済、社会、生活文化、写真及び映画等  
の映像文化、さらに広く工業技術分野で多大なる貢献を果たした  
ことに思いを馳せて、新たに再認識、再評価したいと思います。  
私共、セルロイドヒストリアンや研究者、セルロイドコレクター  
やファンは長きにわたりセルロイド製造業や代理店、加工業、  
国際輸出入貿易、国内の流通商社等に従事し大変な辛苦を重ね  
すでに鬼籍に入られた数多くの先人達の偉業と業績に対して  
関係者の方々と共に深甚なる敬意を払います。